

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 曽根東 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

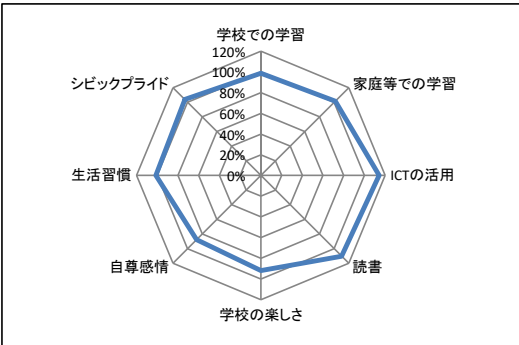
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・「我が国の言語文化に関する事項」に関する問題の正答率が高い。 ・「記述式」の問題形式に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る問題	
	努力が必要な問題	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかを見る問題	

算数	全体的な傾向や特徴など	・「データの活用」に関する問題の正答率は、他の問題に比べると高い。 ・「測定」に関する問題に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見い出すことができるかどうかを見る問題	
	努力が必要な問題	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題	

理科	全体的な傾向や特徴など	・「地球を柱とする領域」に関する問題の正答率が高い。 ・「粒子を柱とする領域」に関する問題に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「ICTの活用」に関する質問への回答の数値が全国平均と比べてよい。調べ学習やまとめ学習、ドリルアプリ等でICT端末を継続的に活用していることが要因になっていると考えられる。今後は、協働的な学びがさらに深まるように他者参照の場面や思考ツールの一つとしての活用も進めていきたい。 ・「読書」に関する質問への回答の数値が全国平均と比べてよい。朝の読書タイムや、読み聞かせボランティアによる活動、学年・学級文庫の充実等が子どもたちの読書好きにつながっている。 ・「自尊感情」に関する質問への回答の数値が全国平均と比べて低い。特に「自分にはよいところがあると思う」の項目が低い結果であった。子どもたち一人一人が、主体的に取り組むことができる学習活動を地域と共に推進していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○学力向上のための特設時間の設定①全校一斉での共通課題への取組（読書ワーク：1～3年生と4～6年生は別課題）②朝の活動時間（8：40～8：55）の取組【月…読書タイム、水…算数タイム・国語タイムを隔週で行う】※読書タイムは、月に2回程度読み聞かせボランティアによる、読み聞かせを実施
○学習規律の共通化…毎時間のめあて・まとめの提示、ノートの形式や振り返りの視点、学習用文具等の共通理解を図る。
○GIGA端末を活用した、個別最適化学習を推進する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○家庭学習定着のために
・そねっとノート（自主学習ノート）の活用。手本となるノートの掲示や担任外による価値付けなど、子どもたちの学力や意欲の向上を図る。
・AIドリルアプリを活用することで、個別最適化学習を推進する。
○生活のリズムを整えた健康的な生活づくり
・学校だより、給食だより、保健だより等で家庭への啓発活動を行う。
・夏季・冬季休業中の生活リズムカードを制作し全校で実施する。
・SNS利用のルールを家庭とも共通理解する。